彼方【かなた】

校長通信
H25.1.7
Vol.38

【始業式で伝えたかったこと】

二〇一三年のスタートです。三年生にとっては九年間の義務教育のまとめをする最後の学期、一、二年生はそれぞれ最高学年として、後輩を迎える学年として、その心構えをつくる学期となります。そこでみなさんに伝えたい大切なお話をします。それは、「人は必ず死ぬ、人生は一度きり、いつ死ぬか解らない」ということです。

日本人の平均寿命は女性が約八十六歳、男性が約八十歳と言われています。そうすると私は後三十年弱生きられます。みなさんは、後六、七十年は生きられるわけです。でもそれは間違いです。本当はいつ死ぬかわからないのです。場合によっては明日死ぬかもしれないのです。このことを二〇一一年三月十一日の東日本大震災が私たちに教えてくれました。年齢も性別も地位も財力も全く関係なく、大地震が、津波がすべてを破壊し尽くし、押し流していったことを忘れてはなりません。三万人にも及ぶ人たちが一瞬にして亡くなった事実を風化させてはならないのです。

そこで考えてほしいことがあります。もしあなたがお医者さんに余命を宣告されたとします。「あなたの余命は後三ヶ月です。」と。その時あなたはどういう生き方をしますか？ここに「未来を拓く君たちへ」なぜ、我々は「志」を抱いて生きるのか」という題名の本があります。そこにそのヒントとなる大切なことが沢山書かれています。

私たちは生きるミッションを持っています。ミッションとは使命です。使命とは、命を使ってなすべきことです。それは何か、「志」です。では、「志」とは何でしょうか？それは、「自分のためではなく、より多くの人のために正しい何かを成すこと」です。それは「自分を成長させる行動」を取ることです。例えば学習課題がわからないとき、みなさんはどうしますか？「教えて！」と聞くでしょ？聞かれた人は「いいよ！」と答えますよね。それから「どこまでわかった？」と聞いてあげるとわからなかった人は考えるようになります。また、わかった人は相手が納得するやり方を考えます。そのやりとりが互いの成長につながるのです。そういう成長するためのやりとりの練習を学校で沢山やるのです。社会に出たらその連続です。助けを求めない人が多くなってはいけないのです。自分から求めることで、周りを動かし、「助け合う社会」をつくるのです。

たとえ三ヶ月しか生きられないとしても、**誰かのために自分ができることを考えて行動することが、「志」を持って生きることであり、「未来を切り拓く」ことなのです。**

なぜこの話をしたかというと、まだ皆さんの中にいじめがあるのです。二学期末のアンケートでからかわれたり、無視されたり、嫌がらせをされたりして悲しんでいる人がまだいるのです。昨年大津市のいじめ問題が沢山報道されました。その中でいじめにかかわった同級生の二人が家庭裁判所に書類送検され、一人が児童相談所に送致されました。これはいじめではなく犯罪だという判断です。彼らが行ったいじめ行為が傷害や強要、名誉毀損、脅迫といった犯罪なのです。いじめは故意にわざとやっている行為です。ごめんなさいではすみません。社会に出ると、わざとでないときでさえも、それぐらいの結果になることは予想できて当たり前ということで責任を取らされます。いわゆる「過失〇〇」という罪です。いじめという罪はありませんが、その中で行われる人を傷つける行為は、全て罪になるのです。

学校はみなさんを裁くところではありません。あくまで教育する場所です。だから裁くことは、警察や家庭裁判所、児童相談所がやります。からかったり悪ふざけでやったりした場合でも、やられた側が訴えれば裁かれる対象になります。授業妨害もそうです。先生や友達に注意されても止めずに続ければ学習権の侵害になります。先生にワザと逆らい、正当な授業を妨害すればそれは公務執行妨害です。

このように、いつ死ぬかもわからないのに、一度しかない人生なのに、「志」も持たず、自堕落な生活を送り、自分の使命を果たそうともしない、これでは自分の未来を切り拓くことなどできません。未来を切り拓くためにやるべき事は「今を一生懸命生きる！」ということです。誰かのために今の自分ができることは何かを考え、一生懸命そのことに取り組むことが「今を生きる」ということです。

残り三ヶ月、本気で今を生きてください。仲間とのすばらしい「絆」をつくり、思いやりとやる気にあふれた湖北中にしてください！

みなさんは何から始めますか？